

あきらめていた「家族旅行」を、もう一度。

Good Time

人生で一番輝くとき“グッドタイム”



充実のシニアライフをクリエイイトするハワイの女性起業家
梨本昌子のグッドタイム

春山 満語録

第二回『若者よ、だまされるな!』/ すべては1回の出会いと1回の偶然

【編集後記】異国の地“ハワイ”で輝き続けられる秘訣。

【言の葉】第一回『春山 満の生き方』



▲一番下の孫マイカ君(3歳)と自宅近くの公園で遊ぶひととき

充実のシニアライフをクリエイトするハワイの女性起業家

梨本 昌子の グッドタイム

梨本 昌子

Nashimoto & Associates 社長

●東京都出身。早稲田大学文学部社会学科卒業後、PR業界で活躍。当時世界一の広告代理店J.ウォルター・トンプソン社にスカウトされ、弱冠27歳で同社の日本PR部門を設立、部長に就任。結婚を機に退職後、グアムへ。1982年にハワイへ移住。PR/広告エージェンシー「Nashimoto & Associates」を設立。ハワイを代表する経済紙「Pacific Business News(PBN)」にてハワイのトップ広告代理店ベスト16社にランクインしている主要代理店である。世界のトップブランドをクライアントに持ち、2006年リテール(小売)業界で知事賞という大賞を受賞。またPBNによる「ハワイで最も優秀な女性賞」に2000年以來連続入賞。かつPBNによる「ハワイのリーダー賞」に5回入賞など、日本女性としての受賞は最多である。2007年に発足したNPO「ハワイ・シニアライフ協会」の発起人兼副会長であり、「リテール・マーチャンツ・オブ・ハワイ」の理事、NPO「ビジター・アロハ・ソサイエティ」の副会長など公的な会の要職も務める。著書に「ハワイ生活事典(Hakuba Super Handbooks)白馬出版」「タイムシェア・リゾートで暮らすハワイ(マリン企画)」がある。2017年2月で創立35周年を迎える。



アメリカ人実業家との結婚を機にハワイへ

春山 哲朗(以下、春山) 梨本さんがハワイを生活の拠点とされてから起業されるまでのストーリーをお伺いしたいのですが。

梨本 結婚をきっかけに東京からグアムへ移住しました。そこで長女、長男を出産してその後ハワイに移り住んで新しい生活がスタートしました。

春山 ご主人はココナッツ・オイルの工場も経営されていて「ヤシ油の王様」という別名をお持ちだったとか。

梨本 はい。グアムで長女と長男を出産した後、夫が「事業のため、今より大きい島へ行く」と言い出して移住先を5か所から選ぶことに。主人の出身地であるアメリカ・メリーランド州やサンディエゴ、香港、東京、ハワイが候補地でしたが子育てにいい環境をと考えて私がハワイを選択したんです。

それだけでなく、ハワイでなら私のビ

ジネス・チャンスもありそうだと思っていました。

結婚前のキャリアが開いてくれた起業への扉

春山 起業に当たって具体的には何かから始められたんですか？

梨本 私がハワイに居を構えたことがすぐにハワイの広告業界に知れ渡ったんです。というのも私は結婚するまで、当時世界最大の広告会社J・ウォルター・トンプソン(現JWT)で高い実績を上げ、国内外問わず名の知れた存在でしたから。それでハワイのいるいるな企業から「うちに来て欲しい」とお声がかかりましたが、報酬はというと、かつてトンプソン社で得ていた金額の5分の1ほど。それではベビシッターの費用にもならない。仕事をしながら家庭のこともしたかったので、最終的に時間が自由になる起業という道を選ぶのがいいん

じゃないか、と判断しました。それに私自身、中学生の頃から起業家的なバックボーンを持った人間じゃないかとずっと思っていました。人のいいなりにではなく自分の意志を貫く性格や人をリードしていく面など、起業家としてのDNAを持っていたことが一番大きな理由だったでしょう。

春山 ご主人は起業に際し、何と言われましたか？

梨本 「わが家は経済的には君が働く必要はない。それでも君が働きたいというのなら自分で勝手にやりなさい。ただし、僕を銀行だと思ってアテにしないように」とけんもほろろで(笑)。

最初は1日の売りが20ドルや30ド

ルだったのですが、ある日東京から日本の電話が。日本のシャネル事業を統括する日本シャネルからでした。ハワイに第1号店をオープンするのでそれに関わってほしいというお話をいただいて。それが35年前のことです。以来、現在に至るまでシャネルの仕事させていただいています。

当時シャネルの仕事で成功を収めた後、ハワイでナンバー1だった某銀行からハワイにある日本企業の銀行利用に関するマーケティングリサーチの仕事が舞いこみました。その後もどんどん一流企業から仕事の依頼が来るようになりましたね。

仕事と家庭との両立には心のバランスを保つことも大切

春山 ハワイで起業されてから35年間、お仕事では突っ走ってこられたと思うのですがプライベートとのバランスはどう保っていたのですか？

結婚、ハワイへの移住、子育て、そして起業。

とても実り豊かな半生でした。

梨本 私は仕事がどんなに大変であろうとつねに家族を最優先にしてきました。皆さんはあまりそう思っただけでさらさないけれど(笑)。私が起業したのは長女が2歳のとき。ベビーシッターもいましたけれど、できるだけ子どもと一緒にいる時間を作りました。だから、子ども連れで打ち合わせに行ったりすることもあります。もちろん、子どもと一緒にでも差し障りのない内容の場合でしたが。だから子どもたちは仕事場でキャリアウーマンとしての私の姿も知っているわけです。お母さんの顔以外にこんな顔もあるんだ、ということを見て育ったことが子どもたちのプラスになったと信じています。

春山 第一線でバリバリ仕事をされて、お子さんの世話もして。すごいパワーですね。

梨本 いくらパワフルな私でも仕事と家庭との両立で、もう息がでなくなってしまうようなストレスを抱えてしまっただけで自分が得意な分野で何か息抜きになることはないかと考えてみたら、それは絵を描くことだったんです。絵は中学生の頃から好きで、高校では絵画部に在籍。油絵もアクリル画も描いていました。大学時代は国際レポーターを目指して新聞科に入り多忙でした。しかし、そのときに絵を描くという静かな時間が大切だということを知りました。やるときはやる、休むときは休むというメリハリを作ることによって仕事の効率も上がり、精神面でも負担が少なくなるということを感じたときに学んだのです。

エイジングは「老い」ではなく「進化」

春山 人は歳を重ねて、やがて若い頃のようにバリバリ働けないときがきます。現役の社長である梨本さんはこれからの人生をどのように描かれますか？

梨本 ほんとにそうですね。一時は毎日歩いていたのに今ではもう、あんまり歩きたくないとか。年相応の体の歪みや痛みがありますよね。歳を取るということは、年齢と上手につきあっていく必要があるんですね。

日本語の「老い」という言葉はちょっとネガティブに聞こえますが、アメリカでは「エイジング」と表現します。この言葉はあまり「老い」を感じさせない。自然に人間はそうやっていくというニュアンスが含まれているんですね。エイジングは当然の進化だと。その進化に従っていくしかないのです。上手にそれを活かしていけばいいんじゃないかと思うんです。つまり成熟していくという気持ちで年齢と向き合いたいな、と。

人のために動くことで自分も幸せになれる

春山 今も梨本さんからは「心の老い」を感じることがないのですが、その秘密は何でしょうか。

仕事と家庭と趣味、それらのバランスが
いい仕事につながると気づきました。



梨本 私のモットーは「Things fall into place」。「真理を追求し、誠実に人や仕事に接し、思いやりを持って正直に生きていけば、物事は自然に流れ着くべきところに流れていく」という意味。私も常に追い風でスイスイと生きてきたわけではなく、ときには逆風に立ち向かって行かなきゃならないこともありましたが、でも、「こうやればよくなるだろう」と希望に燃えて先に進んでいくようにしてきました。それと私のパワーの源は、利他的であるということがあげられます。自分も幸せにはなりたいたいのですが他の人の幸せをサポートすることに気持ちが向くんです。例えば、私はNPO「ハワイ・シニアライフ協会の発起人であるとともに、他に大きなNPOの理事職も5つぐらい抱えています。社長業と並行させているので常任の仕事はできませんが月1回4時間ぐらいのミーティングには出席して、やるべきことはきちんとやっています。

そして、私は一日一善も心がけています。例えば、朝、近所の子どもが目の前で転んで手当てをしてあげたため、出勤が1時間遅れたこともありましたが、でも自分の都合より他人を優先してあげたことでじわりと喜びの気持ち胸いっぱいになり、とっても幸せになれるんです。そして心に感じた喜びは脳に伝わっていい影響を与えてくれるはず。成熟す

るためには他人のために動くことが重要な鍵になると思うんです。

1日1日に

感謝と祈りを捧げて。

春山 梨本さんはつねにポジティブですが「若い」という現実には直面して不安になることもあるのですか？

梨本 それはずーつとありましたね。でも、それは死への恐怖ではなく、愛する人や親しい人とお別れすることを恐れていました。考えると夜中に怖くなって飛び起きるぐらい。でも人生は暗いもんだと思えば暗くなるし、逆もまた然り。「人生は明るい！」と肝に銘じて生きていくことが大事。歳を重ねていくといつコロリと逝くかわからない。だから「今日も元気に生かさせてください」という祈りを心の中で捧げるんです。そうすると安堵感が生まれて1日が楽しく過ごせる。今までは「いけいけドンドン」だった私ですが、最近は「私は生かされています」と思うようになりました。「今日1日、輝くように生かしていただいてありがとうございます」と1日の終わりに感謝する気持ちが大切なんです。これをモットーに1日1日を刻みながらこれからも生きていきます。

私のモットーは「Things fall into place」。

「人生は明るい！」と肝に銘じて生きれば、なんとかなるもんです。



編集
後記異国の地”ハワイ”で
輝き続けられる秘訣。

梨本 昌子さんは僕にとってハワイの母である。初めてお会いしたのは約10年前。梨本さんが発起人であるNPO「ハワイ・シニアライフ協会」から依頼を受けて父 春山 満がハワイでセミナーを行ったときのこと。当時、僕はまだ新入社員だったので父の抱持ちでそのセミナーに参加したのを覚えている。それから約2年経った頃、僕は梨本さんの会社 Nashimoto & Associates にインターン生として受け入れていただき、3ヶ月間みっちり鍛えられた。大事な会合やパーティーにも梨本さんの抱持ち兼運転手で同行させていただいたが、梨本さんが会場に到着するやいなや各界の著名人が挨拶にこられる。あつという間に梨本さんの周りには人だかりができ、食事をする暇もなく会が終わることも珍しくなかった。多いときには1週間連続するときもあり、それでも人前で決して弱音を吐くことなく、笑顔で振るまう梨本さんについていくだけで精一杯だった記憶がある。

一方で、老いの現実には直面されている

春山 哲朗

株式会社ハンディネットワーク インターナショナル
代表取締役

●1985年、春山 満の長男として生まれる。高校を卒業後ハワイの大学へ留学。その後、アメリカ ネバダ州のUniversity of Nevada, Las Vegasへ編入。2007年、春山 満からビジネスを学ぶため、(株)ハンディネットワーク インターナショナルへ入社。2012年、同社 取締役役に就任。2014年、代表取締役役に就任。MBSラジオ「失くしたものを数えるな!大丈夫や~!!」のパーソナリティを務める。2015年、新事業「グッドタイム トラベル」のサービスを開始。
著書に「脳から血へ〜でるほど考える!!」(週刊住宅新聞社)、「若者よ、だまされるな!」(週刊住宅新聞社)がある。

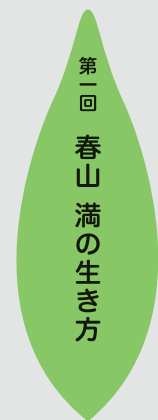
ことも事実である。梨本さんは今もなお現役社長として活躍されているが、若い頃とは働き方も随分変わってきているそうだ。もうリタイアされても不思議でない年齢ではあるが、梨本さんが輝き続けられる理由の一つは、「役割」をしっかりと持ち続けられていることだと思う。仕事やNPOでの役割、そして梨本さんを頼りにされている社員や取引先などの要望に応え続けること。そして、プライベートではご家族との時間を大切にし、趣味である水彩画にも力を注がれている。仕事、家族、趣味のどれかに特化することなく、よいバランスが今もなお梨本さんを輝かせる秘訣だと今回のインタビューを通してわかった。

身体は少し老いたとしても心の老いを全く感じさせない梨本 昌子さん。これからも、日本のドラ息子”へ格好いい女性の輝き続ける生き様を見せてほしい。

ホームドクター 田村 学の

言の葉

第1回 春山 満の生き方



田村 学

医療法人学縁会 おおさか往診クリニック
理事長

●1989年 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
1992年 マサチューセッツ州立大学メディカルセンターアシスタントプロフェッサー
2001年 大阪大学医学部耳鼻咽喉科准教授
2008年 おおさか往診クリニック開設
2009年 日本在宅医学会理事
2010年 大阪大学医学部臨床教授
著書:『風になった医師』

この冊子のタイトルは『Good Time』。英語らしく「グッ・タイム」と元気に口ず

さむと、異国の言葉ながら、心地よい余韻が残る。良きひと時とでも訳したらいいのだろう。英語では、友人を見送ったりするときに、I have a good time(楽しんできてね)と言ったりする。この『Good Time』という言葉をよく口にされていた「車いすの社長」として知られる故・春山 満氏は、「人生の最終章はグッドタイムでなくてはなりません」と言われている。人生の最終章がグッドタイムとなるためには、その言葉にふさわしい生き方をするのが大切です。良き生き方のコツは?と問われると、誠実に、欲張らず、人のために、一生懸命に、生きる。とたくさんの方の生き方が頭に浮かぶ。満氏から頂いた教訓、「ないものねだりはしない。残された機能、能力を120%使い切る」は、最も大切な生き方のコツと私は思う。満氏は、難病である進行性筋ジストロフィーのために手足がご不自由だったが常に、現状を受け入れて、「考える、話す」という機能が自分には残されているか

ら幸せだ」と言われ、受容の達人であった。

人は歳を重ねる毎に、耳が遠くなり、視力が衰え、神経痛がでるなど、少しずつ機能が衰え、使える機能が限られてくる。すなわち、歳を重ねるとともに、受容能力を高める必要にせまられる。受容できないと自分の思いと現実と齟齬(そご)が生じ、苦しみが生まれ、時には怒りにまで発展する。受容することで、物の見方が変わり、穏やかな自分を見つめることができる。より良き日々を重ねていくことができる。満氏は、「私は、体が不自由ですが、皆さんよりも少しだけ早く老化しているだけです」とも言われた。

私は、ホームドクターとしてご自宅を診察し、多くの方の看取り(死亡診断)を行ってきたが、ご自宅で、ご自分の健康状態、病状を受容できた方には「グッ・タイム」が見えてくる。

これから、このコラムを担当することとなりましたので、よろしくお願ひいたします。

第二回

『若者よ、だまされるな!』

一番弟子とドラ息子¹の運命も変えた。
カリスマ車いす社長、魂のメッセージ。

すべては1回の出会いと1回の偶然

運気は降ってくるんじゃないぞ。運気は掴むもんなんだ。

良い縁は、別の良い縁を訪ねてくれる。ただな、悪い縁は、必ず次の悪い縁を連れてくるぞ。これまでいるんなプロジェクトにかかわり、いろんなプロジェクトを成功させてきた。人は、「逆転の発想で成功した車いす社長」だの、いろんな表現をするよ。でもね、それぞれのプロジェクトと、どうやって出会ってきたのか。それは、みんな1回の偶然と、1本の電話から始まったのよ。その1回の縁を大事にし、1回の偶然をありがたく思い、そしてぜったい成功と満足へ導くと気概をこめてかかると、「春山さんに頼んでよかった」といわれるようになった。このうわさがさざ波のように、

次々と連鎖していった。こうやって、東京海上もトヨタも大塚製薬も、今の日本航空もサンヨー電機も、そしてオリックスも、やがてまちづくりまで、いろんなものに連鎖していった。

僕は、運が良いと言われる。ありがたいな、まったくそのとおり。ただな、運気は降ってくるんじゃないぞ。運気は掴むもんなんだ。良い縁を大事にして、ささやかないい出会いを本場に大切にしておいて、そして、成功と満足へ導くと、必ず次の良い縁を連れてくる。これが人生のおもしろさ。でもね、悪い縁に泣いて、宿命を恨んで、逃げよつとばかり思うと、また、さらに悪い縁に取りつかれて、が

んじがらめにされる。これも人生やぞ。すべては自分次第。自分が変われば、世界は変わる。

(週刊住宅新聞社刊「若者よ、だまされるな!」より抜粋)



『若者よ、だまされるな!』
発行/週刊住宅新聞社
2012年初版発行
定価/本体1500円+税



春山 満

株式会社ハンディネットワーク インターナショナル 創業者

●24歳より進行性筋ジストロフィーを発症し、30代後半には首から下の運動機能を全廃。1988年、全国初の福祉のデパート「ハンディ・コープ」を開業。1991年、ハンディネットワーク インターナショナル(HNI)を設立、介護・医療のオリジナル商品を開発・販売する。幅広いネットワークと、体験を通した独自の視点と着眼で、大手医療法人の総合経営企画・コンサルティング、企業や自治体のプロジェクトに数多く参画。2003年、米国ビジネスウィーク誌にて『アジアの星』25人に選出。2005年、オリックス不動産(株)と共同出資し、高齢者住宅運営会社オリックス・リビング(株)を設立。2007年、公益財団法人国家基本問題研究所評議員就任。2008年、ハワイシニアライフ協会 名誉理事就任。自身がパーソナリティを務めたMBSラジオ「若者よ、だまされるな!」は日本民間放送連盟賞 近畿地区 ラジオ教養部門 最優秀賞を受賞。2014年、進行性筋ジストロフィーによる呼吸不全のため60歳で永眠。

主な著書に「僕にできないこと。僕にしかできないこと。」(幻冬舎)、「若者よ、だまされるな!」(週刊住宅新聞社)、「僕はそれでも生き抜いた」(仁パブリッシング)など。

グッドタイム トラベルがおすすめる「厳選ホテル・旅館」



「シーズテラス」オープンド フロアテイングアイランド

杉乃井ホテル (大分県)

別府湾と市街地を一望する大型リゾートホテル

別府市の高台に建つリゾートホテル。温泉やレストラン、アミューズメントが揃っているのでお子様から年配の方まで幅広く楽しめます。今年オープンしたフロアテイングアイランド「シーズテラス」ではリゾート感溢れるフロアで贅沢なバイキング料理が楽しめます。ご宿泊プラン「中館プラン」でご予約いただきますと、話題の「シーズテラス」や昨年オープンしたワールドダイニング「シーダパレス」、大分の旬の食材を使った和食会席が自慢の「花水木」、銀座「ラベツトラ」の落合 務氏が監修する「レストランテアズーリ」よりご夕食を選ぶ事ができます。



夕映えの宿 汐美荘 (新潟県)

夕日の美しい宿全国ナンバーワンに輝いた
「夕映えの宿」



瀬波海岸の波打ち際に立地する「夕映えの宿 汐美荘」はその名のとおり日本海に沈みゆく夕日を堪能できる絶景の温泉宿。夕日をコンセプトにした宿づくりを行い、夕映えソムリエ、夕映えシアター等、様々なオリジナルティ溢れるおもてなしをお楽しみいただけます。

ホテル玉之湯 (長野県)

日本旅館の情緒を存分に味わえる、
バリアフリー設計の宿



障害をお持ちの方が快適にお過ごしいただけますよう、車椅子生活の方に設計段階から関わっていただきました。露天風呂付き客室を含む、3タイプ全8室のバリアフリー客室を完備し、ご宿泊のお客様はリフト浴可能な貸切風呂を1時間無料でご利用いただけます。

「Good Time」定期お届け便のご案内

「Good Time」は7月、12月の年2回発行いたします。是非、定期お届け便をご利用ください。店舗や施設の待合スペースでの設置も可能です。ご希望の方はご相談ください。

■お申込み方法

TEL 072-725-3388

FAX 072-725-3088

メール goodtimetravel@hni.co.jp

定期
お届け便
無料

お届け先のお名前・ご住所・お電話番号をお知らせください。

※お客様の個人情報は、厳重に保管・管理しております。お客様の承諾を得た場合を除き目的以外での利用はいたしません。

「グッドタイムトラベル」とは…

「グッドタイムトラベル」はお客様のご要望にお応えする完全オリジナル企画旅行です。お客様やご家族だけでなくかかりつけのドクターやケアマネージャーの意見も反映させ、安心してご家族皆様に楽しんでいただける旅行をプランニングします。さらに、ケアスタッフ(トラベルケアアテンダント)を同行させていただき、ご家族の負担を取り除くとともに、介護を受ける方もご家族に気兼ねなく楽しんでいただける旅行を実現します。

トラベルケア アテンダント Travel Care Attendant (TCA)

介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級)以上の資格を持ち、「グッドタイムトラベル」の教育プログラムを修了した介護のプロフェッショナルです。